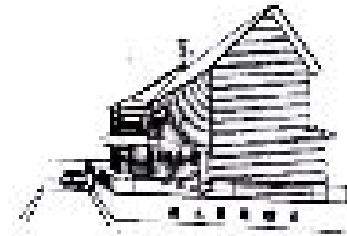


**<今朝の聖書から>** 今朝の箇所は“わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今それに堪えられない(16:12)”から始まります。“告別の説教’と云われている所になります。弟子たちはどこまでも、イエス様に従いたいと願っていました。しかし実際に聖書が語っていることは、弟子たちにも理解できない中身ばかりのように見えます。そこに更に、十字架の出来事を語っても、なかなか分かってもらえないだろうと、優しく語っているように読む事ができます。期待に反する“悲惨な起こるべきこと”を聞かされても、納得できないために、ある人はイエス様から離れ、ある人は悲しみの中で全てを失うことになりそうだったのでしょう。次にペンテコステ(聖霊降臨)について触れられます。13節には“それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう”とあります。どんなことでしょうか。その解説が15節に“父がお持ちになっているものはみな、わたしのものである。御霊はわたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるのだと、わたしが言ったのは、そのためである”とあります。しかし“しばらく”とか“父の御元に”という意味が何としても分からなかったのが弟子たちでした。そこで主の説明がなされます。20節にその頂点があるようです。“よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたは泣き悲しむが、この世は喜ぶであろう。あなたがたは憂えているが、その憂いは喜びに変わるであろう”とあります。“反社会的・反宗教的存在”と見なされていたイエス様に対する態度は、どちらかなのです。悲しむほどのものでも、だからといって私に何を喜べというのかと、受け取る人は多かったことでしょう。弟子たちはよく主の教えを聞きましたが、何も聞くには聞くが悟ることを何一つしなかった人たちの姿でしょう。更にこの説教は、御霊の働きについて進みます。御自身の死によって死に打ち勝つことはイースターの出来事でした。使徒2:24に“イエスが死に支配されているはずはなかったからである”。そして“今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びを取り去る者はいない”と、力が与えられる時、平安の言葉が、私たちの教会に語られています。

# 週報

2010年 5月 9日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト  
**清水草薙キリスト教会**

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042